

ステップ4
歴史文化保存活用区域(5つの区域)を設定!

歴史文化保存活用区域
一定の空間に集積した関連文化財群や構成文化財と、周囲の景観や雰囲気が一体となり、歴史文化の特性や空間のイメージが顕著に表れている区域を設定。

●歴史的空間を創り出している関連文化財群等を重点的に保存・活用
関連文化財群の効率的・効果的で
一体的な保存・活用につなげる。

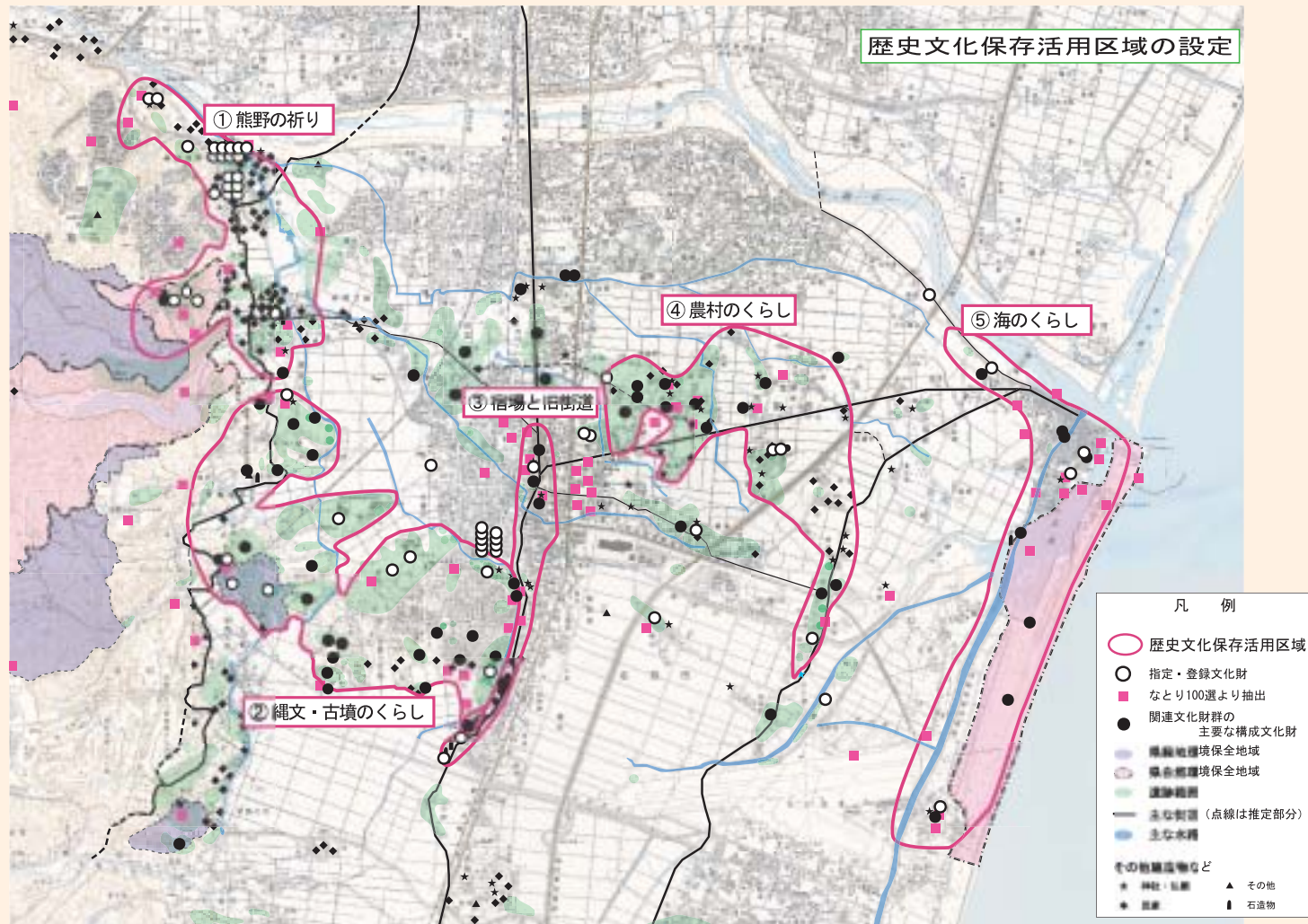
6群の関連文化財群や、構成文化財などが集積する5ヶ所の区域を、歴史文化の特徴の顕在化を重点的に図る計画区域に設定。

- ①「熊野の祈り」
高館地区(熊野堂、吉田付近)
「熊野信仰」が空間のイメージ
- ②「縄文・古墳のくらし」
高館・愛島・館腰地区
(川上、小豆島・笠島・塩手、飯野坂・植松付近)
「名取のはじまり」が空間のイメージ
「古墳文化の繁栄」が空間のイメージ
- ③「宿場と旧街道」
増田・館腰地区(増田、飯野坂・植松付近)
「街道沿いの街のくらし」が空間のイメージ
- ④「農村のくらし」
増田・下増田・関上地区
(下余田、飯塚・杉ヶ袋、大曲・高柳付近)
「田園風景と近年のくらしの原風景」が空間のイメージ
- ⑤「海のくらし」
関上地区(関上・北釜付近)
「海のくらし」が空間のイメージ

【6群の関連文化財群と歴史文化保存活用区域の関連性】

歴史文化保存活用区域	1 熊野・高館の祈りや海辺の丘と縄文のくらし	2 雷神山古墳と結びついた縄文文化	3 名取郡の成立と東力中継	4 熊野三社と名取者女	5 瀬田郡と河口家・中尾藩住宅	6 真山藩 関と関上
①熊野の祈り 高館地区 (熊野堂・吉田 付近)	◎	○	○	○	○	○
②縄文・古墳のくらし 高館・愛島・館腰地区 (川上・小豆島・笠島・塩手、飯野坂・植松 付近)	◎	◎	◎	○	○	○
③宿場と旧街道 増田・館腰地区 (増田・飯野坂・植松 付近)	○	○	○	○	◎	○
④農村のくらし 増田・下増田・関上地区 (下余田・飯塚・杉ヶ袋、大曲・高柳 付近)	○	○	○	○	○	◎
⑤海のくらし 関上地区 (関上・北釜 付近)	○	○	○	○	○	◎

凡例：◎は主体的な関わりのあるもの、○は関わりのあるもの。

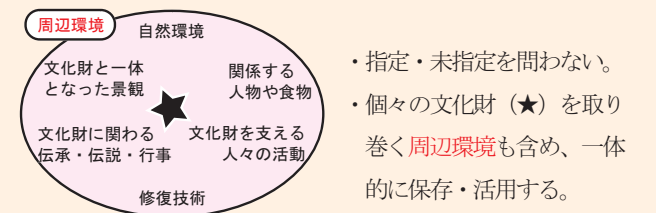


歴史文化基本構想とは

今後の文化財保護(保存・活用)のマスタープラン。
地域の貴重な歴史文化の保存・継承が次第に難しくなっている現状から、その歴史的な価値・特性・魅力を確認し、未来へ受け継いでいくために、今後の保存・活用の基本的な考えや方向性をまとめたものです。

ここがPoint!

○地域の歴史文化を、従来の型に捉われず周辺環境も含め、柔軟な視点で幅広く捉え、その特徴や魅力を表す「群」として把握し、保存・活用!



歴史文化の特性把握と6群の関連文化財群

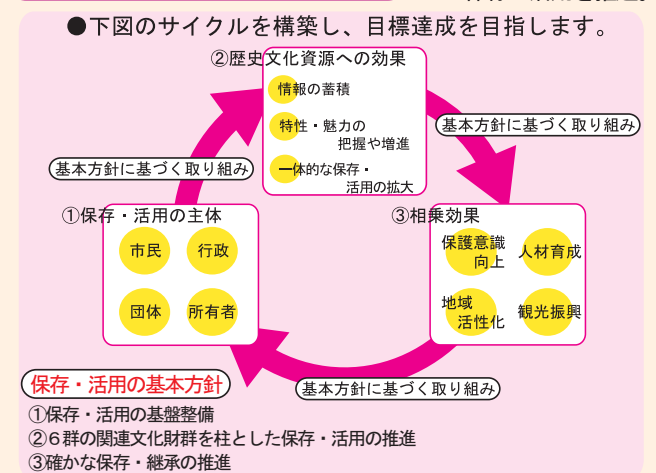
ステップ1
歴史文化の特性を把握!

- ・自然環境など変化により、人々の生活は丘陵部から次第に東側の平野部、沿岸部へと拡大。地域の特性に応じた歴史文化がある。
- ・雷神山古墳が「古墳時代以前は東北の中心地」を象徴。
- ・政治の中心が北へ移った古代以降も、都市周縁部として発展。
- ・全国的に珍しい特徴を持つ熊野三社と関連の文化財に特色。

ステップ2
関連文化財群の設定!

●名取市の歴史文化の特性や魅力を物語る6つのテーマをもとに幅広く柔軟な視点でパッケージ化した「6群の関連文化財群」を設定。
➡詳しくは、次ページに!

ステップ3
今後の保存・活用の方針をまとめる!
歴史文化を確実に未来へ伝える



6群の関連文化財群

愛島・高館の森や海辺の丘と縄文の暮らし

市内西部や愛島丘陵の周辺で展開された、歴史の原点とも言える旧石器時代や縄文時代の暮らしに焦点をあて、設定したものです。

時に厳しく、時に豊かな恵みを与えてくれる自然環境と共生しながら安心して暮らせる場所として、名取の地が選ばれていた事が分かります。

【主な構成文化財】

- 野田山遺跡
- 宇賀崎貝塚
- 大木戸貝塚
- 今熊野遺跡
- 金剛寺貝塚
- 前野田東遺跡
- 地名 (宇賀崎、小豆島など)

雷神山古墳と花開いた古墳文化

古墳文化繁栄のシンボルであり、当時の名取が東北の中心であったことを物語る「雷神山古墳」のほか、数多くの古墳、大きな集落、近畿・東海・関東地方との活発な交流を示す出土品などが含まれています。これに加え、早くから大陸文化を取り入れながら、その基盤を形成していった弥生時代のものを含めて設定したものです。

【主な構成文化財】

- 十三塚遺跡・出土品
- 原遺跡
- 雷神山古墳・小塚古墳
- 飯野坂古墳群
- 今熊野遺跡 方形周溝墓
- 下増田飯塚古墳群

名取郡の成立と実方中将

8世紀初め頃の名取郡成立により、歴史の舞台に「名取」が登場しました。この頃の名取郡には、陸奥国府が置かれるなど、東北の政治・文化の中心地でした。多賀城成立後も多くの人々が暮らす要地として、平野部にも大規模な集落が営まれます。また、丘陵部の「東山道」沿いには、実方ゆかりの旧跡などがあり、これらを含めて設定したものです。

【主な構成文化財】

- 清水遺跡
- 笠島廃寺跡
- 道祖神社
- 前野田東遺跡
- 実方の墓
- 西行法師歌碑
- 熊野堂横穴墓群

熊野三社と名取の老女

平安後期成立と伝わる名取熊野三社は、全国に3,000以上ある熊野ゆかりの社寺の中で、紀州和歌山の熊野三社と同じく、本宮・新宮・那智の三社を個別にお祀りし、位置関係なども模しているなど、全国的にも珍しい特徴があります。この熊野信仰に関わる数多くの文化財や、その成立に深く関わる「名取老女」の伝承や旧跡を含めて設定したものです。

【主な構成文化財】

- 熊野本宮社
- 熊野那智神社
- 熊野神社 (新宮社)
- 懸仏・銅鏡
- 新宮寺文殊堂
- 大門山遺跡
- 熊野堂神楽・舞楽

増田宿と洞口家・旧中沢家住宅

仙台藩に属した近世には、市中央の奥州街道沿いに増田宿の「まち」、平野部には洞口家住宅などの水田・堀・「いぐね」に象徴される田園の集落、西部の丘陵には、谷筋の丘陵裾などの狭い範囲に、鎮守・村堂・山林・池・畑・水田・墓地などで構成される素朴な集落が営まれました。この様な、それぞれの環境に応じて展開した暮らしを示すものを設定しました。

【主な構成文化財】

- 館腰神社
- 洞口家住宅
- 衣笠の松
- 鶴見屋土蔵
- 『広積院日記』
- 飯塚大同屋敷跡
- 旧中沢家住宅

貞山運河と関上

名取川河口の港まち関上は、仙台と外洋をつなぐ物資運搬や漁業・農業を生業とし、近世には藩直轄の港として、「貞山運河」や名取川を通じた城下への材木・米の運搬などで賑わいました。明治には、増田・関上「2つのまち」を結ぶ新道が、大正末から昭和初期には、増東軌道が整備されました。この様な、海岸文化の拠点としての特色を物語るものを設定しました。

【主な構成文化財】

- 関上大漁唄込み踊
- 関上鐺祭り
- 日和山の築山
- 津波標柱
- 津波碑関係文書
- 貞山運河
- 関上手士の松並
- 関上八景

